

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・4月号・付録
2013年4月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL (03)5379-5521 / FAX (03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

ギャラクシー賞 各部門、下期の募集を開始 —2月理事会報告—

2013年2月28日、2月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田編集長

・2013年4月号は校正作業は終了した。

・5月号の特集は「今時若者のメディア観」。表紙は櫻井翔さん。ザ・パーソンは升家誠司さん。6月号の特集は「スポーツ」。新しく編集委員にNHKドラマ部の吉川邦夫さんが加わった。

◇選奨事業委員会

〈テレビ委員会〉 丹羽委員長

・1月31日に1月度の月評会を開催した。4本の月間賞について説明。2月度の月評会は3月1日に開催する。

・第50回下期の応募を受付中。

〈ラジオ委員会〉 桜井委員長

・2月21日に合評会を開催した。

聴取した番組はラジオ福島の「手塚伸一 Sunday 卯↓King」で、最近はやチャート番組が番組として成り立たなくなっているのではと話題になった。音楽番組はプロを入れて演出に力を入れてほしい。

〈CM委員会〉 五井委員長

・2月19日に定例会を開催した。

〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・50周年記念イベントの出演者が確定した。

◇企画事業委員会 確井委員長

・講師、パネラーとの打合せを行った。面白いシンポジウムになるのではないかと。現在の参加者は86名だが、今後の集客はみなさんにご協力をお願いしたい。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・昨年は年間グランプリの投票をヤフーのGPOストアと連携したので、今年も提携を提案したい。

2. 50周年委員会報告

藤田委員長

①50周年記念式典 藤田委員長

50周年記念贈賞式の基調講演は久米宏さんに決まった。

②50周年記念出版 藤田委員長

当初700ページの予定だったが、950ページ程度になる模様。初校のゲラが上がってきて、校正作業が始まった。

③トロフィー 橋本専務理事

トロフィーとトロフィーを収納する箱、賞状の見本が上がリ、理事一同で確認した。また、トロフィーと同封する予定の葉の文章について、理事の方々の意見を次回の理事会までにいただきたい。

④データベース 滝野理事

4月1日はプレオープンとし、関係者の検証の機会としたい。記念式典に合わせて6月の頭から本稼動にする予定。

⑤50周年記念イベント 橋本専務

理事 藤田委員長

各部門で日程とおおよその内容が決まってきた。CMは入賞作品をすべて上映するので、4時間半から5時間必要。テレビ部門はバラエティ、ドラマ、ドキュメンタリー、ワイドショーに分けて構成する予定。ラジオはドラマの名作とパーソナリティーのパネルディスカッションを予定している。

今後企画を詰めて4月中旬にはチラシ配布を開始する。また、5月10日までは記者発表したい。

3. その他

①退会

正会員 高村裕さん

②志賀信夫賞正会員推薦のお願い
推薦の戻りが少ないので、理事の皆さんに是非推薦をお願いしたい。

③放送ライブラリー公開セミナーの案内送付の件
放送ライブラリーからの公開セミナーの案内を発送した。

④東京TVフォーラムの件
東京TVフォーラムを運営するNPO法人の役員に放懇理事長に入ってほしいとの要請がある。↓了承

次回以降の理事会

3月27日(水)

4月30日(火)

「出席」音好宏、橋本隆、上滝徹也、小田桐誠、藤田真文、飯田みか、碓井広義、丹羽美之、桜井聖子、五井千鶴子、鈴木嘉一、滝野俊一、小林毅、坂本衛、嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗田政憲、中島好登

会議記録

「2月」

12日 出版編集委員会
15日(選奨) テレビ50周年イベント
19日(選奨) CM定例部会
21日(選奨) ラジオ定例部会
28日 理事会



新入正会員自己紹介

共通のあれを探して

西川博泰

株式会社メディア開発総研でメディア環境の変化について研究しております。とはいってももの、一視聴者として好き勝手にあれは最高だ、これは面白くない、などとかつて教室で昨日見た番組をあだこうだ言うのと大して変わらない感覚をいまだに持っています。

最近の学校ではそういった光景が少なくなつたようで若者のテレビ離れなどと言われていますが、今の学生たちは友達とどんな会話をしているのでしょうか。どんな会話であれそれは「共通」の話題であることには違いありません。

かつて、誰もが観ていたテレビ番組があるように、今の学生の中にもみんなが観ている「あれ」があつて大人はそれに気づいていない。なぜならそれが視聴率などのデータでは測れないものになつたからなのだと思います。ネットが普及し情報やコンテンツが氾濫する中で若者に刺さつた「あれ」を見逃さず、これからの放送の可能性を広げていくことができればと考えております。